



“わだっち”

発行日 2012年8月6日
発行元 わだっち編集部
連絡先 090-3097-8636
machidebut_info@yahoo.co.jp

親子で街デビュープロジェクトの活動ブログはこちらをご覧ください。
<http://blog.goo.ne.jp/machidebut>

好評連載 地域コミュニティ新聞「わだっち」への道

第三回 心を伝える新聞で街がひとつにつながった！

自分の力を開花させた文章講座

「見てきた『事実』を伝えるだけじゃだめ。『事実』に裏打ちされた『感動』を描くんだ」――。今年の2月から始まった文章講座は、初回から盛り上がった。元日経新聞記者の坪田知己さんが、本音を引き出す取材の実演・伝えたいキーセンテンスから組み立てる文章作りを教えてくださいました。

本当に書きたいことを掘り下げる行為は「自分を見つめ直す」こと。もやもやした想いを書き出し・書き重ねることで、日常に追われ忘れがちな「もう一人の自分」と出会い直す。課題を繰り返す中で、母たちは自分自身の感覚や感動に気づき、表情も活き活きと変化した。持てる力を少しずつ開花させはじめた瞬間だ。

立場や年代を超えてつながった取材

「このお店の由来から教えてください」――。取材に向かった赤ちゃん連れの母親たちに、どの店主さんも温かく接してくれた。創業したころの和田商店街の様子、家族とともに商売を築いた努力、商売へのこだわり……。店主さんの口から聞く話に母親たちは感動し、引き込まれた。

母親のほとんどはワーキングマザー。いずれ来る仕事と子育ての両立生活の大変さを思い描きながら、苦労を重ねて店を守り続けた店主さんの努力に心を打たれる。

「まだまだ……。まだまだ、自分たちはがんばれる！」

街の心をつなげた新聞「わだっち」！

文章講座の成果をまとめ、5月18日に地域新聞「わだっち」は創刊された。600部を印刷し、母親の口コミと店頭で配布。創刊号では知名度が薄かった「わだっち」が、2号で一気に広まった。

「創刊号をお隣からもらって以来、楽しみにしてたのよ！」見知らぬ街の人から「わだっち」の反響を聞くたびに編集部

の士気があがる。「喜んでもらえた」「わかってもらえた」充実感。この街に出会えて本当によかった。

「わだっち」でつないだ街の心。母親たちの熱い想いが飛び火して、新しいエネルギーの誕生を予感させている。

親子で街デビュープロジェクト 代表
消費生活アドバイザー

西本 則子



3号では林楽器商会を取材。取材でなければ出会えない社長さんの話に感動！

発掘！この人シリーズ②

ひだまりクリニック 佐山 圭子さん



「ここがお母さんたちのひだまりになればいい。」
はじめてひだまりクリニックを訪れた時、私は思った。
悩みや不安でいっぱいだった最初の育児で、こんな場所に出会えたかった...と
いう思いから、1人でも多くの人に知ってほしいと佐山先生の応援団になった。
3児の母である佐山先生の「お産の話」「子育て体験談・失敗談」など、小児科のお医者さんでも同じなんだ...と感じた。
医師という壁を一切感じさせない気さくさ。どんな些細なことでも真剣に私たちの
悩みに耳を傾けてくれる。それが先生の一番の魅力。
「みんな違ってみんないい。」「お母さんが納得して笑顔でいることが大事！」先生の言葉は温かく、お母さんを応援したいという気持ちが溢れている。
果たして自分の悩みにこれだけ親身になって語ってくれる先生がいるだろうか？実家に帰ってきた様なホッとするクリニックがあるだろうか？... そう思うと素敵な先生をひだまりクリニックを応援していきたいと思う。

月に2回のひだまりクラスでは、先生を囲んで参加したお母さん同士が色々なテーマに向き合いシェアする。答えは出せなくても少し前進した気持ちになる。元気になる。検診や予防接種で、元気な赤ちゃんを具合の悪そうな子のたくさんいる病院に連れて行かなくてもよいのも魅力のひとつ。兄弟がいても、待たせている間に自由に遊ばせていられることは母子ともに助かる。

ひだまりクリニックは、お母さんと子どもたちの声が届くクリニック。その声がひだまりクリニックをもっと素敵な場所にしてくれるのではないかと期待で胸が膨らんでいる。(ふうちゃん)

- ❖ ひだまりクラスは水曜日、月に2回（基本的に第2と第4水曜日）オープンします。
 - ❖ アクセス 杉並区和田3-4-1 2 角の2階建ての白い建物の1階です。
- 詳しくは公式ブログ <http://blog.goo.ne.jp/hidamarisalon> もしくは hidamarisalon@ybb.ne.jp

- ・ひだまりクリニック・まつしま病院 小児科医
- ・高円寺保健センター他健診医
- ・『知ろう！小児医療 守ろう！子ども達』の会 協力医
- （紹介ページ<http://shirouiryu.com/profile/message.html>）
- ・3児の母
- ・杉並在住歴14年

20年後の和田商店街を想う



商店街活動は「地域の絆を強めるコミュニティ・出会いの場」へ。ボランティア参加した若者同士が結婚→@和田に所帯→出産で人口増加！

「親子が住みたい街No1」になり、和田で子育てしたい親子が続々と移住し地価高騰の恐れあり。

サラリーマンはもう古い！

「商店街応援コミュニティ」バックアップする「若者ショップ」が続々と新しいビジネスを展開。店主さんも応援隊も「生涯現役」。

杉並区一番のご長寿タウンに。(妄想)
(にしもつちゃん)

いまの和田商店街は「どこか懐かしい」。それは人との繋がりや温かさを感じられるから。20年後の「懐かしい」はきっとその逆。「昔は商店街で買い物をする人も少なくて、地域とどう関わればいいのか分からない若い人がいっぱいいた。そんな時代もあったのよ、懐かしい～」と言っていたい。(のだっち)

「わだっち」を読んだ人が和田商店街の魅力に惹かれレストランを出店！食材の仕入れは商店街。お肉もお魚も美味しい！と口コミで評判に。レストランを訪れた人達は帰りに商店街をぶらり。食材やお洋服も買って、店主さんともいつものご挨拶。今日も良い一日だったな〜と、日常にほっこり温かい時間を届けてくれる商店街が20年後も続いていてほしいな。(あきちゃん)

アンケートにお答えください

- 地域新聞「わだっち」について、多くの方に楽しんでいただける紙面づくりのためにアンケートを行っています。
- 携帯電話からはQRコードを読み取ってご回答ください。
- PCからは右記アドレスにアクセスしてご回答ください。 <http://start.cubequery.jp/ans-004974b9>
多くのおみなさまの声が編集部員のはげみになります。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。



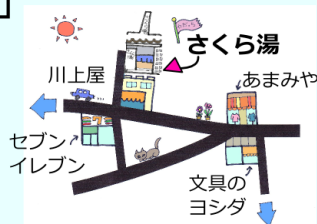
わだっち編集部が行く！ お店訪問レポート4

体を癒し、心を癒す！

「和田の名湯『さくら湯』のススメ」

さくら湯

- 住所：和田3-11-9
- 電話番号：03-3381-8461
- ※お電話は午後以降をお願いします
- 営業時間：15:30～24:00
- 定休日：木曜
- 設備：コインランドリー・気泡風呂・超音波風呂・座・寝風呂・電気風呂・立ちシャワー・サウナ・水風呂・体組成計



和田商店街から川上屋の角を入ったあたり、午後三時過ぎにちょっとした人だけりができる。銭湯の一番風呂を楽しみに、わらわらとあちらこちらから人々が集まってくるのだ。

女性の手で守り継がれる銭湯

「さくら湯」は昭和27年4月に創業された。満開の桜の季節に開業を迎えたことにちなんで、「さくら湯」と名づけられた。花の名を持つ銭湯にふさわしく、さくら湯は大女将の創業から数えて3代、60年にわたって女性の手で守り継がれている。

懐かしさの残る館内は、すみずみまで掃除の手がいきわたっている。「気持ちよく入ってもらう」ために、女将らが毎日手間隙をかけてみがきあげる館内。細やかなこだわりが感じられる。見知らぬ客同士が互いに譲り合って、みんなが気持ちよく使えるよう、さりげない気配りがするのにも女将たちならではのやさしさ。「せっかくお風呂に来たんだもの、気分よくなってもらいたいじゃない。」と、笑って答える二代目女将の岡田寿美子(すみこ)さん。



「写真はいいわよ」と照れながらも、番台に座るとキリッと女将スイッチON!はさすが！二代目寿美子さん。



半径10メートルのさくら湯さんエピソード

さくら湯の女将さんは、話題が豊富！コミュニケーションの達人よ。真剣に話を聞いてくれて、相手にとっての一番を考えてくれる。大人の女性ね。(川上屋さん)

体を癒し、心を癒す銭湯の新しい価値づくり

最近では、お風呂の時間以外に脱衣所のスペースで行うエアロビや手ぬぐい体操などの企画が人気を呼んでいる。広々とした場所で、出会いを楽しみながら体を動かすとは、銭湯の新しい楽しみ方だ。3代目の女将も思考を凝らし、週に1度ゆずやラベンダーといった温泉気分が味わえるお湯を用意している。お客さんからの評判がとてもよい。



一人暮らしのお客さんにとって、さくら湯はコミュニケーションの場としても大きな役割を担っている。銭湯独特のくつろいだ空間で、にぎやかな話声は絶えない。こうした他愛もないシーンのなかでも、女将たちはお客さんの様子に変わりがないか、絶えず目を配っている。なかには、看護婦のキャリアを持つ若女将がお客さんの健康相談に乗る一コマも。ゆったりと湯船につかりながら、体を癒し、心を癒す。商店街の中にあるさくら湯は、まさにオアシスのような存在だ。

「気軽なプチ贅沢」で、若い世代も銭湯を楽しもう！

今や各家庭に風呂があり、銭湯とも縁遠くなってしまった。しかし和田商店街には、昔からの老舗が今も健在、たくさんの人に親しまれている。「温泉」に行くともなれば、ちょっとした計画と労力を要するが、その点「銭湯」ならば話は早い。「子どもたちを洗って湯船につかる」日々の流れ作業にも、ちょっとした彩が添えられる。子どもと一緒に足を伸ばしてゆっくり体の芯まで温められる「気軽なプチ贅沢」。試してみる価値がありそうだ。

利用者は年配の方ばかりではない。閉店0時間際は、お務め帰りの若い利用者が駆け込み、一日の疲れを流していく。週末には、お友達同士で連れ合っでさくら湯を訪れる若いお客さんもいる。サウナもあって、ちょっとしたスパ気分が味わうことができるらしい。最も銭湯には縁遠そうな小さい子連れ客。大きなお風呂でつつい盛り上がり騒いだり、マナーも心配というあなた！17時から21時の時間帯は比較的空いているようだ。夕方の煮詰まりそうな時間には、親子で銭湯デビューはどうだろうか？この街に暮らす楽しみがまたひとつ増えそうだ。

取材を終えて わだっち編集部 スライスより (取材日：3月5日)



実は子どものころにときどき行っていたさくら湯。ダンスのレッスンのあとで仲間と一緒に大きなお風呂、風呂上がりの牛乳はいい思い出です。今回の取材で女将の寿美子さんのさくら湯への思いとホスピタリティに感動。時間を工夫して今度は子連れでプチ贅沢☆を目論んでいます。暑い夏こそ熱いお風呂！